

課題解決型研究プログラム 自然共生研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 生物多様性国家戦略の報告書の発行や論文も1年で52報と多く発表されているのが大きな成果である。【年度】
- 色々な対策、管理で社会実装、迅速な対応をされたこと、また、地道なツール・データベース公開・応用と試料保存を推進されたことを評価する。【事後】
- 今年度は新型コロナの影響があったが、報告書や論文執筆に力を入れ、環境省の総合評価に重要な貢献をした。【年度】
- 生物分布やDNAのデータベースの保存公開は国立環境研究所ならではの有用な成果で高く評価する【事後】

今後への期待など

- 気候変動に対する適応策の観点からも森林の維持が重要であることが分かったのは意義があるので、各方面に強調されたい。【事後】
- ヒアリの問題では、生態系をよく理解しその課題解決を試みている。今後とも解決法の検証をつづけ、類似した危機対応に役立てていただきたい。【年度】
- 衛星観測によるサンゴの一斉産卵観測が可能になったことは驚きだが、経年変化を追跡されることを期待する。【年度】
- 太陽光パネル設置と絶滅危惧種の保全に関するトレードオフ&シナジー研究は、興味深く拝見した。保全重要地区を避けることでパネルポテンシャルは確保できるのか、両者の両立の条件は何か、合意に到達できるシナリオ提案を期待する。【事後】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 次期プログラムにおいても引き続き自然共生社会構築に向けた研究を推進して参ります。
- ② 今年度は成果のとりまとめに注力し、生物多様性評価にインプットできたと考えております。
- ③ プロジェクト5「霞ヶ浦流域における生態系サービス研究」においても、流域内の森林面積率が増加すると5つの生態系サービス(一次生産・炭素蓄積・気候調整・洪水調整・ハビタット多様性)のシナジーが増加する傾向が明らかになりました。気候変動下で、多様な生態系サービスを維持する上で森林は重要であると考えています。
- ④ コロナ禍においてもグローバル・サプライチェーンの勢いは止まらず、今後もヒアリのような非意図的外来生物の侵入は繰り返されるものと予測され、水際でのモニタリング・防除のシステム強化が急がれます。本研究プロジェクトにおいてもヒアリ防除システムをひとつのステレオタイプとして確立したいと考えております。
- ⑤ 太陽光発電と生物多様性保全の両立については、次期においても引き続き、有用な情報提供と現実的なシナリオ提案に向けて研究を進めて参ります。生態系サービスの利用と多様性保全のトレードオフ・シナジーに関する他の事例についても、プロジェクト間の連携により評価可能なものを検討して参ります。